

# 安全データシート

作成日 2018年10月 9日

改訂日 2020年 7月14日 1/8頁

SDS No.1021-10076

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Steroids and Mixed Pharmaceuticals Mix  
製造者名 : Restek Corporation  
製造者住所 : 110 Benner Circle, Bellefonte, PA 16823, USA  
製造者電話番号 : 1-814-353-1300 (Customer Service)  
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社  
供給者住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F  
供給者電話番号 : 03-5323-6611  
供給者FAX番号 : 03-5323-6622  
製品コード : 1021-10076  
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)  
整理番号(SDS No.) : 1021-10076  
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)  
使用上の制限 : 試験・研究用

## 2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2  
急性毒性(経皮) : 区分3  
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2A  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(中枢神経系、呼吸器)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(中枢神経系、血液系、呼吸器、  
肝臓、腎臓)  
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分2

### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H225 引火性の高い液体及び蒸気  
H311 皮膚に接触すると有毒  
H332 吸入すると有害  
H319 強い眼刺激  
H370 中枢神経系、呼吸器の障害  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、血液系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害のおそれ  
H402 水生生物に有害  
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

[安全対策] :

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
P233 容器を密閉しておくこと。  
P240 容器を接地しアースをとること。  
P241 防爆型の機器を使用すること。  
P242 火花を発生させない工具を使用すること。  
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。  
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271	屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
[応急措置]	:
P302+P352	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
P303+P361+P353	皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
P304+P340	吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P311	ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
P314	気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。
P361+P364	汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378	火災の場合、消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	漏洩物を回収すること。
[保管]	:
P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

### 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	: 混合物
化学名又は一般名	: Steroids and Mixed Pharmaceuticals Mix 詳細は以下の表に記載
成分及び濃度	: 本製品は、10種類のステロイド成分を各200ppm含有したアセトニトリル溶液です。

化学名(又は一般名)	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
アセトニトリル	99.8%	CH <sub>3</sub> CN	2-1508	—	75-05-8
Bisphenol A	0.02%	C <sub>15</sub> H <sub>16</sub> O <sub>2</sub>	4-123	—	80-05-7
17-alpha-Ethinylestradiol	0.02%	C <sub>20</sub> H <sub>24</sub> O <sub>2</sub>	—	—	57-63-6
17-beta-Estradiol	0.02%	C <sub>18</sub> H <sub>24</sub> O <sub>2</sub>	—	—	50-28-2
Estrone	0.02%	C <sub>18</sub> H <sub>22</sub> O <sub>2</sub>	9-2145	—	53-16-7
Dicrpfenac Sodium Salt	0.02%	C <sub>14</sub> H <sub>10</sub> Cl <sub>2</sub> NNaO <sub>2</sub>	3-3082	—	15307-79-6
Primidone	0.02%	C <sub>12</sub> H <sub>14</sub> N <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	—	—	125-33-7
Testosterone	0.02%	C <sub>19</sub> H <sub>28</sub> O <sub>2</sub>	—	—	58-22-0
Progesterone	0.02%	C <sub>21</sub> H <sub>30</sub> O <sub>2</sub>	—	—	57-83-0
4-tert-Octylphenol	0.02%	C <sub>14</sub> H <sub>22</sub> O	3-503	—	140-66-9
4-pa-Nonylphenol	0.02%	C <sub>15</sub> H <sub>24</sub> O	3-503	—	84852-15-3

## 4 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努め、直ちに医師の手当てを受けること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹸と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 目に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
- 暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状及び遅発性症状の  
最も重要な兆候症状 : 咽頭痛、脱力感、腹痛、息苦しさ、痙攣、意識喪失、嘔吐。皮膚の乾燥、発赤。眼の発赤、痛み。症状は送れて現れることがある。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。

## 5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有害なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。
- 消火を行う者の保護 : 燃焼又は高温により有害なガスが発生するので、呼吸保護具を着用する。

## 6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。  
こぼれた場所は滑りやすいために注意する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法および機材 : 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除き、密閉できる空容器に保管し、適切に処分すること。

## 7 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。  
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。  
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。  
作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。  
アンプル開口時には保護眼鏡及び保護手袋を着用し注意して切断する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。  
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。  
使用後はアンプルを適切に廃棄すること。  
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。  
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。  
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。  
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

## 保管

- 適切な保管条件 : 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。  
容器は直射日光を避け、防爆型冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。
- 避けるべき保管条件 : 直射日光、高温、火花等を発生する場所、混触危険物質との接触
- 技術的対策 : 換気により場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。  
火気厳禁。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、火源の近くに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : ガラスアンプル等

## 8 ばく露防止措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。  
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 許容濃度 :

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA	OSHA PEL-TWA
アセトニトリル	設定されていない		20 ppm	40 ppm
その他の成分	設定されていない			

## 保護具

- 呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク、保護マスク
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴
- 適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。  
取り扱い後は手、顔を良く洗うがいをする。

## 9 物理的及び化学的性質

製剤のデータがないため、沸点以下はアセトニトリルの情報を記載する。

- 物理状態 : 液体
- 色 : 無色
- 臭い : エーテル臭
- 融点/凝固点 : -45℃
- 沸点または初留点 : 81.6℃(760mmHg)
- 可燃性 : 高い可燃性
- 爆発下限界及び爆発上限界 : 3.0~16vol%
- 引火点 : 6.1℃
- 自然発火点 : 524℃
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : データなし。水、エタノール、ジエチルエーテルなどの有機溶剤と混和する。  
多くの飽和炭化水素と混和しない。
- n*-オクタノール/水分配係数
- log Po/w : -0.34
- 蒸気圧 : 9.7kPa(20℃)
- 密度/相対密度 : 0.7857 g/cm<sup>3</sup>(20℃)
- 相対ガス密度(空気=1) : 1.4
- 粒子特性 : 該当しない

## 1 0 安定性及び反応性

- 化学的安定性 : 適切な保管条件下では安定。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤との混触により発熱、発火する。  
酸性水溶液、塩基性溶液と反応して有毒なヒュームを生じる。
- 避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化物、硫黄酸化物

## 1 1 有害性情報

- 急性毒性(経口) : 4-パラ-ニルフェノールが区分4に該当するが、アセトニトリルが区分外で計算の結果3,618mg/kgであり区分外となった。
- 急性毒性(経皮) : アセトニトリルが区分3に該当し計算の結果396mg/kgとなり混合物として区分3となった。
- (アセトニトリル) : ウサギ LD50=395mg/kg(雄)(75%水溶液)、978.8mg/kg(雄)(原液)(EHC 145(1993), EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))
- 急性毒性(吸入:蒸気) : アセトニトリルが区分4に該当し、既知成分が全て同一分類区分であるため区分4となった。
- (アセトニトリル) : ラット LC50=16,000ppm(4時間吸入暴露試験)  
ラット LC50=7,551ppm、12,435ppm(4時間換算:10,679ppm、17,586ppm)(8時間吸入暴露試験)(EHC 154(1993),EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 4-パラ-ニルフェノールが区分1に該当するがその濃度が3%未満であるため混合物として分類できないとなった。
- (4-パラ-ニルフェノール) : ウサギに0.5 mLを閉塞適用した試験(OECD TG 404)において、3分間のばく露で軽度から中等度の紅斑及び水腫、4時間で中等度の紅斑及び強度の水腫を示し、次いで外表面の壊死、全層壊死、亀裂、皮膚の落屑、潰瘍形成、脱毛、かさぶた、瘢痕化がみられ、皮膚に不可逆的な損傷が現れた(NITE初期リスク評価書,2005)。
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : アセトニトリル他1成分が区分2及び区分2Aに該当し、合計濃度が10%以上であるため区分2Aとなった。
- (アセトニトリル) : ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の眼刺激性は中等度又は重度の刺激性を示すとの報告がある(NITE初期リスク評価書(2007),EU-RAR(2002))。なお、EU CLP分類において本物質はEye Irrit.2に分類されている(ECHA CL Inventory (Access on June 2017))。
- (4-tert-オクチルフェノール) : ヒトにおいて強い眼刺激性との記載がある。ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405準拠)において、角膜混濁、虹彩炎、重度の結膜刺激などがみられ、24時間後のスコアが63.0であったが、症状が不可逆的との情報はない(SIDS(2005))。なお、EU CLP分類において本物質はEye Dam. 1に分類されている(ECHA CL Inventory(Access on June 2017))。
- 呼吸器感作性 : データ不足のため混合物として分類できない。
- 皮膚感作性 : ビスフェノールAが区分1に該当するが混合物として分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため混合物として分類できない。
- 発がん性 : エストロンが区分1Aに該当するがその濃度が0.1%未満であるため混合物として分類できない。
- (エストロン) : 本物質(別名:エストロン)はエストロゲン的一种であり、閉経後の女性の治療等に用いられる(医療用医薬品集2017(2016),HSDB(Access on August 2017))。ヒトでは、本物質単独ではないが、結合型エストロゲン(エストロン硫酸エステルナトリウム、エクイリン硫酸エステルナトリウム、17 $\alpha$ -ジヒドロエクイリン硫酸エステルナトリウムの配合剤)を子宮摘出患者に対して投薬した場合や、結合型エストロゲンと黄体ホルモンを併用した女性が乳がんになる危険性が有意に上昇するとの報告がある(医療用医薬品集2017(2016))。女性ホルモン製剤による閉経後エストロゲン療法では乳がん、子宮内膜がんのリスクの上昇が複数のコホート研究、症例対象研究で報告されており、IARCは閉経後エストロゲン療法に対しグループ1に分類している(IARC 72,1999)。

- 生殖毒性 : エストロンが区分1A、ビスフェノールAが区分1Bに該当するがその濃度が0.1%未満であるため混合物として分類できない。
- (エストロン) : 本物質 (別名: エストロン) はエストロゲン的一种であり、閉経後の女性の治療等に用いられる (医療用医薬品集2017 (2016), HSDB (Access on August 2017))。ヒトでは、本物質単独ではないが、結合型エストロゲン (エストロン硫酸エステルナトリウム、エクイリン硫酸エステルナトリウム、17 $\alpha$ -ジヒドロエクイリン硫酸エステルナトリウムの配合剤) は妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 (妊婦・産婦・授乳婦) に対しては、安全性が確立されていないため禁忌とされている (医療用医薬品集2017 (2016))。
- (ビスフェノールA) : ラットに低用量(0.2~200  $\mu$ g/kg/day) を投与した2世代試験では生殖能への影響はみられていないが、ラットを用いた3世代試験では各世代とも500 mg/kg/day で一般毒性 (体重の軽度低下(雌雄)、尿細管の変性(雌のみ))と共に関生殖毒性(同腹児数の減少) がみられた。また、マウスに極低用量から高用量まで(0.003~600 mg/kg/day)投与した2世代試験では生殖能への影響はみられなかったが、マウスを用いた連続交配試験において、F0の600 mg/kg/day以上で妊娠腹数の減少が生じ、同腹児数と同腹生存児数の減少が第4~第5腹まで連続してみられた。この生殖影響は親動物に一般毒性影響のない用量でみられた。以上の生殖毒性試験を通して、生殖影響のNOAELはラット3世代試験から 50 mg/kg/day と設定された。方、ラット、マウスを用いた標準的な発生毒性試験ではビスフェノールAが発生毒性物質であるとの証拠は得られていない。ただし、上記のラット3世代試験では500 mg/kg/dayでF1~F3児動物に離乳までの体重の低値推移と性成熟遅延が認められ、またマウス2世代試験でも600 mg/kg/dayでF1児動物の体重の低値とともに、F1、F2雄児動物の離乳時に精巣下降不全、及び精細管の低形成がみられており、次世代への発生・発達影響が示されている(EU-RAR(2010))。以上、本物質は実験動物で生殖発生毒性を示す証拠が十分あり、特にマウス連続交配試験では親動物に一般毒性影響がない用量で生殖能低下がみられている。なお、EUは本物質の生殖毒性をRepr. 1B に分類している(ECHA C&L Inventory (Access on December 2015))。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : アセトニトリルが区分1に該当しその濃度が10%以上であるため混合物として区分1となった。
- (アセトニトリル) : ヒトでは本物質の誤飲や自殺企図による経口摂取例、及び工場での事故による急性吸入ばく露例が複数報告されており、急性影響は、疲労感、悪心、嘔吐、錯乱、痙攣、昏睡等であり、重度の場合は死に至るとの記載がある。また、吸入ばく露で鼻、喉に刺激があるとの報告がある(NITE初期リスク評価書,2007))。実験動物では、マウスの単回経口投与試験で区分2範囲の300~2,000 mg/kgで、自発運動低下、振戦、衰弱、正向反射低下、努力呼吸、痙攣、喘ぎ、流涎が認められたとの報告がある。また、マウスの4時間単回吸入ばく露試験で区分2範囲の3,039~5,000 ppmで、自発運動低下、歩行異常、正向反射消失、緩徐呼吸、努力性呼吸、速呼吸、喘ぎ、体温低下、後肢伸展、横臥位、被毛の黄色化が認められたとの報告(EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))、及びマウスの1時間単回吸入ばく露試験で500~5,000 ppm(4時間換算値: 250~2,500 ppm、区分1範囲に相当)で、重度の呼吸困難、あえぎ、振戦、痙攣が認められたとの報告がある(EHC 154(1993),EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))。更に、ラットの8時間単回吸入ばく露試験で生存例と死亡例の両方に肺の出血とうっ血が認められたとの報告がある(EU-RAR(2002),NITE初期リスク評価書(2007))。この試験では用量の詳細な記載はないが、LC50値(4時間換算値)は10,678 ppm(雄)、17,585 ppm(雌)と報告されており、影響は区分2範囲の用量でみられたと考えられる。
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : アセトニトリルが区分2に該当するため混合物として区分2となった。
- (アセトニトリル) : ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日間/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である800 ppm(1,340 mg/m<sup>3</sup>(90日換算:0.97 mg/L))以上で死亡、自発運動低下、被毛粗剛、胸腺の重量減少、貧血症状(赤血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値の減少)、死亡例で肺のうっ血及び水腫、肺胞・脳出血、骨髄細胞減少、胸腺の萎縮、脾臓のリンパ球減少、卵巣の黄体減少がみられ(NITE初期リスク評価書(2007),環境省リスク評価第3巻(2004),NTP TR447(1996))、ラットを用いた蒸気による90日間吸入毒性試験(7時間/日、5日/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である166 ppm(279 mg/m<sup>3</sup>(90日換算:0.33 mg/L))以上で肺拡張不全、肺胞の組織球性細胞集簇、330 ppm(554 mg/m<sup>3</sup>(90日換算:0.65 mg/L))以上で気管支炎、肺炎がみられている(NITE初期リスク評価書(2007),EU-RAR(2002))。また、マウスを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm(168 mg/m<sup>3</sup>(90日換算:0.12 mg/L)以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm(335 mg/m<sup>3</sup>
- 誤えん有害性 : データなし

## 1 2 環境影響情報

水性環境有害性 短期(急性) : 4-tert-オクチルフェノール他1成分で区分1、ビスフェノールA他1成分が区分2に該当し、その濃度が25%以上であるため混合物として区分3となった。

(4-tert-オクチルフェノール)

: 甲殻類(アミ) LC50=0.0479mg/L,96h(環境省環境リスク評価第2巻,2003)

(4-para-ノニルフェノール)

: 藻類(Skeletonema costatum) EC50=0.027mg/L,96h(EU-RAR,2002)

(ビスフェノールA)

: 甲殻類(ミシッドシュリンプ) LC50=1.1mg/L,96h(ECETOC TR91(2003),EU-RAR(2010),NITE初期リスク評価書(2005),環境省リスク評価第3巻(2004))

(エストロン)

: 甲殻類(アミ) LC50>10mg/L,96h(NLM HSDB(2012),EPA ACQUIRE(2017))

水性環境有害性 長期(慢性) : 4-tert-オクチルフェノール他2成分が区分1、ビスフェノールAが区分2に該当しその濃度が25%以上であるため混合物として区分3となった。

(4-tert-オクチルフェノール)

: 急速分解性がなく(BOD=0%,化審法DB(1978))、魚類(ニジマス)のNOEL=0.0061mg/L,60d(OECD SIDS,1995)

(4-para-ノニルフェノール)

: 急速分解性がない(EU-RAR,2002)

(エストロン)

: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BIOWIN)、魚類(ゼブラフィッシュ)のNOEC=0.0000977mg/L,40dである(EPA ACQUIRE:2017)である。

(ビスフェノールA)

: 急速分解性がなく(週間でのBODによる分解度:0%(既存点検,1977))、魚類(ファットヘッドミノー)の164日間NOEC=0.16mg/L(NITE初期リスク評価書(2005),環境省リスク評価第3巻(2004))である。

分解性/残留性 : データなし

生態蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への影響 : 当該物質はモントリオール議定書に掲載がなく、オゾン層破壊物質に該当しない。

## 1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。  
都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 1 4 輸送上の注意

## 国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

UN No. : 1648

Proper Shipping Name : ACETONITRILE

Class : 3

Packing Group : II

Marine Pollutant : Not applicable

航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 1648

Proper Shipping Name : Acetonitrile

Class : 3

Packing Group : II

## 国内規制

陸上規制 : 非該当

海上規制 : 船舶安全法に従う。

国連番号 : 1648

品名 : アセトニトリル

クラス : 3

容器等級 : II

海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報	: 航空法の規制に従う。
UN No.	: 1648
品名	: アセトニトリル
クラス	: 3
容器等級	: II
緊急時応急措置指針番号	: 127

## 1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 劇物 (指定令第2条第1項) No.32
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.15 危険物・引火性液体(施行令別表第1第4号) No.4-3 強い変異原性が認められた化学物質 No.135
化管法	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) No.13
化審法	: 優先評価化学物質(法第2条第5項) No.38, 75, 157
消防法	: 第4類引火性液体、第一石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) No.2
船舶安全法(危規則)	: 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1) No.1648
航空法	: 引火性液体類(施行規則第194条危険物告示別表第1) No.1648
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1) No.4
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申) No.9, 18 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)【揮発性有機化合物】
水質汚濁防止法	: 有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条) No.2
土壌汚染対策法	: 特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条) No.5
廃掃法	: 特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4) No.5
オゾン層保護法	: 非該当

## 1 6 その他の情報

## 引用文献等

ezSDS、ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社  
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)  
 化学品安全管理データブック、化学工業日報社  
 16918の化学商品、化学工業日報社(2018)  
 航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

## 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。